

事業番号	04 04 02	事業改善シート（令和4年度実施事業分）				<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	地域の交通安全を推進するための事業	部局	県民文化部	課・室	くらし安全・消費生活課				
		実施期間	S45 ～	E-mail	kurashi-shohi@pref.nagano.lg.jp				
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）との対応関係									
重点目標									
総合的に展開する重点政策	4-4 生命・生活リスクの軽減								

1 現状と課題

平成17年以降交通事故件数は減少しており、令和3年の交通事故死傷者数5,741人及び交通事故死者数45人は統計開始以来最も少なかったが、令和4年は新型コロナウイルス感染症による社会経済活動制限の緩和に伴う影響もあり、今後交通量の増加が見込まれるため、改めて交通安全関係機関・団体、市町村等と連携し、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践による県民の交通安全意識を向上させる必要がある。

2 事業目的

- ・ 県民の交通安全の意識を高め、交通事故のない安全で安心な県民生活の実現を目指す
- ・ 安全教育の充実による安全安心な自転車利用の推進を図る

3 予算のポイント・主な取組（当初予算又は補正予算時の実施予定）

- ①交通安全のない安全で安心な県民生活の実現
- ・ 季別（年4回）の交通安全運動に合わせた（街頭）啓発活動の実施
 - ・ 交通死亡事故が短期間で発生した際の「交通死亡事故多発警報」等の発表による注意喚起の実施
 - ・ 交通事故被害者等が抱える補償問題や生活問題等の解消を図るための相談・助言等の実施
 - ・ 高齢ドライバーによる運転事故防止のため、高齢者自身に身体機能低下の気づきを与え、安全運転を支える対策を実施
- ②安全安心な自転車の利用促進の取組
- ・ 「長野県自転車の安全で快適な利用に関する条例」に基づく安全安心な自転車の利用推進のため、幼児から高齢者までライフスタイルに合わせた啓発活動の実施
 - ・ 現行の「長野県自転車活用推進計画」が令和4年度で終了するため、関係団体・機関及び有識者から意見を徴取し、第2次長野県自転車活用推進計画の策定

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R2年度		R3年度		R4年度		R4年度目標値	達成状況	設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移				
①	交通事故死傷者数（暦年）	人	5,802	5,741	↗	5,657	↗	6,000	達成	交通安全対策全般の施策の成果を図る上で継続的に把握可能な数値であるため指標に設定。R4年はコロナ禍以前のR1年（7,624人）比で向上することを目標とした。	
②	自転車事故発生件数（暦年）	件	628	626	↗	532	↗	600	達成	安全安心な自転車利用の成果を図る上で継続的に把握可能な数値であるため指標に設定。R4年はコロナ禍以前のR1年（772人）比で向上することを目標とした。	
③	高齢ドライバー事故による死者数（暦年）	人	14	14	→	12	↗	20	達成	高齢ドライバーへの事故防止対策の成果を図る上で継続的に把握可能な数値であるため指標に設定。R4年はコロナ禍以前のR1年（24人）比で向上することを目標とした。	

5 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)			
R4年度	0	22,834	△ 640	22,194	21,123	20,510	9.0
R3年度	0	22,873	0	22,873	22,630	19,526	9.0
R2年度	0	22,100	△ 186	21,914	21,656	20,133	10.0

事業番号	04 04 02	事業改善シート（令和4年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	地域の交通安全を推進するための事業		部局	県民文化部	課・室	くらし安全・消費生活課

6 主な取組実績と成果

①交通事故のない安全で安心な県民生活の実現

- ・ 季別の交通安全運動（年4回延べ47日間）における啓発活動等の実施や交通安全教育により、県民の交通安全意識の向上を図ったことで、平成17年から続いている交通事故件数の減少を達成した。
- ・ 短期間のうちに交通死亡事故が連続発生した際の「交通死亡事故多発警報」の発令（年3回）により、交通安全意識の高揚を図った。
- ・ 交通事故被害者等が抱える補償問題や生活問題等の相談に対してきめ細かく対応するため、交通事故相談員による情報交換を行う機会を設け、知識や対応力の向上を図ったことにより、相談者のアンケート結果では満足度85%以上を維持した。
- ・ 高齢ドライバーによる交通事故防止を図るため、高齢ドライバー向け交通安全講習の指導者を養成する研修の受講対象者を広く募り、指導者の育成を図った。

②安全安心な自転車の利用促進の取組

- ・ 「長野県自転車の安全で快適な利用に関する条例」に基づく安全安心な自転車の利用推進のため、県内の幼児（5～6歳児）及び小学校新一年生全員に交通ルールを学ぶための小冊子を作成・配布した。また、通学等で自転車の利用頻度が増加する中学校や高校に対して自転車の安全利用を呼び掛けるチラシを作成・配布し安全意識の高揚による事故防止を図った。
- ・ 自転車の利活用を推進するため、自転車活用推進計画ネットワーク会議等を通じて有識者、関係団体・機関及び関係庁課からの意見を集約し、令和5年3月に第2次長野県自転車活用推進計画を策定した。
- ・ 自転車を利用する高齢者に対して自転車用ヘルメットの着用を促す「ヘルメットモニター事業」を展開し、自転車乗用時のヘルメット着用の重要性について周知を図ることができた上、参加者の86%からヘルメットの着用を継続するとのアンケート結果を得た。



7 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	交通事故死傷者数（暦年）	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、関係機関や団体と連携して街頭啓発活動等を実施したことによって、県民の交通安全意識が高まり、交通事故死傷者数は統計開始以降最も少ない人数（5,657人）に抑えることができた。							
指標②	自転車事故発生件数（暦年）	R3年度推移	↗	R4年度推移	↗	達成状況	達成
各年齢層の対象に応じた啓発活動や交通安全教育を推進したことにより、自転車事故件数を前年比15%（532件、△94件）抑止することができた。							
指標③	高齢ドライバー事故による死者数（暦年）	R3年度推移	→	R4年度推移	↗	達成状況	達成
高齢ドライバーに対する各施策を関係機関を推進し、高齢ドライバーによる交通事故死者数を抑止することができた。（12人、△2人）							

8 今後の事業の方向性

(1) 令和4年度の取組実績、成果指標の分析及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・ 平成17年以降18年連続で県内の交通事故件数は減少し、死者数については3か年連続で50人を下回っている現状ではあるが、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴う社会経済活動の活発化により交通量の増加による交通事故の増加が見込まれるため、改めて関係機関・団体、市町村等と連携し、県民の交通安全意識を醸成する必要がある。
- ・ 令和4年の自転車事故件数は減少したが、自転車事故による死者数は8人と前年比3人増加していることから、引き続き自転車事故による死者を防ぐための啓発活動が必要である。
- ・ 令和4年の高齢ドライバーによる交通事故死者数は減少し、事故件数については過去3年は横ばいで推移しているが、交通事故件数全体の割合で見ると約3割と増加傾向であり、また交通事故死者数全体に占める高齢者の割合は約6割であるため、高齢者が関係する交通事故を防止する必要がある。

(2) 翌年度以降の事業改善の方策

- ・ 季別の交通安全運動における街頭啓発活動等コロナ禍で自粛していたイベントについて関係団体・機関と連携し、啓発活動を再開することにより、県民に直接的に交通安全をアプローチすることで更なる交通安全の意識を醸成する。
- ・ 令和5年4月から自転車乗用時のヘルメット着用が努力義務化となったことから、関係機関・団体と連携を強化し、ヘルメットの着用を広く浸透させることで致命傷となる頭部への衝撃を緩和させ、自転車事故による死者数を減少させる。
- ・ 高齢ドライバーに対し、高齢者が免許更新をする際に受講する高齢者講習において、安全運転サポート車に関するチラシを受講者に配布し、サポートカーを啓発・普及することにより高齢者の交通事故防止を図る。

事業番号	04 04 02	細事業一覧（令和4年度実施事業分）		□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検		
事業名	地域の交通安全を推進するための事業		部局	県民文化部	課・室	くらし安全・消費生活課

細事業 No.	細事業名	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
1	交通安全運動推進事業	2,804 千円	3,906 千円	4,767 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	交通安全対策会議による交通安全実施計画の策定	直接	交通安全対策会議を通じて第11次長野県交通安全計画に基づく「令和4年度長野県交通安全実施計画」を策定 1回開催（書面開催）	
2	長野県交通安全運動推進本部顕彰	直接	長野県交通安全推進本部（本部長：知事）において、交通安全の推進に功労のあった模範的な個人・団体・市町村に顕彰を実施 本部顕彰1回実施、市町村顕彰21回実施	

細事業 No.	細事業名	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
2	交通安全啓発活動事業	1,792 千円	1,726 千円	1,505 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	交通安全運動	直接	県・市町村・警察・教育委員会及び交通安全関係団体による季別の交通安全啓発活動の実施（ポケットティッシュ・反射材の配布など） 年4回実施	
2	交通安全運動推進地方部（地域振興局単位）が行う重点啓発	直接	地方部（地域振興局）ごとに地域の状況等に応じて重点的に取り組むテーマ（例：飲酒運転撲滅等）を定め、これに基づく交通安全の重点啓発活動を実施 支給額679千円	
3	長野県ダンパー協会に対する補助金交付	補助金	協会が実施する交通安全対策事業（事業者や運転者への研修会や過積載防止パトロール等）への補助（補助対象経費の1/2以内） 補助額400千円	
4	高齢者の安全運転を支える対策	直接	（一社）日本自動車工業会の「いきいき運転講座」を活用し、市町村交通指導員等を対象に、高齢ドライバー向け交通安全講習指導者養成研修を実施 受講者45名（オンデマンド方式）	

細事業 No.	細事業名	R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
3	交通事故相談所運営事業	11,972 千円	13,325 千円	13,088 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	県内3箇所の常設相談所の運営、巡回相談の実施	直接	交通事故相談員による交通事故被害者等からの交通事故の様々な問題や悩み、疑問などの相談に応じた説明や助言等の実施 相談件数639件（うち巡回相談28件）	

事業番号	04 04 02	細事業一覧（令和4年度実施事業分）		□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検		
事業名	地域の交通安全を推進するための事業		部局	県民文化部	課・室	くらし安全・消費生活課

細事業 No.	細事業名		R2年度 決算額	R3年度 決算額	R4年度 決算額
4	安全安心な自転車利用推進事業		3,565 千円	569 千円	1,150 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和4年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	安全・安心な利用に関する周知・啓発	直接 委託	<ul style="list-style-type: none"> ・「親子交通安全絵本」（5～6歳児対象）を作成・配布し、家庭及び保育園・幼稚園等での教育を促進 ・「自転車安全ルールブック」（小学校新一年生対象）を作成、県内全小学校へ配布 ・ヘルメット着用や保険加入の重要性を周知する「自転車安全利用促進チラシ」を作成し、自転車事故件数の多い高校生、自転車販売店へ配布 絵本17,500部作成、ルールブック17,000部作成、チラシ50,000部作成		
2	「第2次長野県自転車活用推進計画」の策定	直接	有識者会議である「自転車活用推進計画ネットワーク会議」を通じて「第2次長野県自転車活用推進計画」の策定 会議1回開催		